

令和8年度

柿原小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 根拠を持って、自分の考えを表現することができる
- 他者の考えを受け入れながら、伝え合い、学び合える

校長

上岡 有里

学力向上推進員

筒井 美帆

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読みや整数の四則計算などの基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている児童が多い。 ●漢字や九九などの基礎的・基本的な知識・技能の定着の差が大きいのが課題である。	・整数の四則計算を確実に行うことができる。 ・漢字を適切に使うことができる。 ・語彙を増やし、正確に文章を読んだり、書いたりすることができる。	・児童の発達段階や能力、課題の進み具合に応じて、ICTを活用した習熟度別のプリントやドリル等を用意する。 ・「～さんは、なぜそのように考えたのかな」と全体に問い直しや補助質問をすることにより、児童一人一人が意味や根拠を説明できるようにする。 ・新しく習う漢字を児童一人一人に担当として割り当て、「ミニ先生」として解説してもらう活動を取り入れる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話形をもとに、自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりすることができる。 ●根拠をもとに、自分の考えを表現したり、友達と意見交流し、新しい考えをつくり出したりすることに課題がある。	・話し合い活動を通して思考を深め、問題解決に取り組むことができる。 ・根拠や理由をもとに、自分の考えを説明したり、文章に書き表したりすることができる。	・語彙の量と質の充実を図るために、言い換えや言葉集めを行ったりする。 ・話し合い活動などの言語活動を積極的に取り入れる。その際、根拠をもとに言ったり、「なぜ?」「具体的に?」など話を深堀させる習慣をつけたりする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に真面目に向き合い、課題にも一生懸命取り組むことができる。 ●家庭学習や読書、苦手な学習内容の克服等に、計画的、継続的に取り組むことに課題がある。	・苦手な学習にも最後まで前向きに粘り強く取り組むことができる。 ・発達段階に応じた家庭学習や読書習慣を身に付けることができる。	・家庭学習の習慣化を図るために、生活チェック表(スマイルチェック)を活用したり、学年便りや懇談等で保護者の協力を呼びかけたりする。 ・自主学習を友達同士で見せ合ったり、コメントし合ったりする機会を設けるなど、学び合いの場を充実させる。 ・分かりやすい授業を行うために、ICT等を活用し、児童の興味関心を視覚的に捉えられるようにする。		0	